

## 人材養成像

グローバルヘルス領域におけるTMGHとLSHTMの共同研究・プロジェクトの推進及び両大学の更なる連携強化を推進する人材の養成を目的としている。国際連携専攻における修士生は、将来的に日英が共同で推進する第3国での研究プロジェクトや実践プロジェクトのリーダーとして推進する能力に加え、日英のみならず、日本と欧米先進国や国際機関との連携強化を通じてグローバルヘルスを推進することができる能力を持った者となる。具体的には、TMGH及びLSHTMの教員・研究者や国際機関、国内機関(JICA等)、国際NPOが実施する国際プロジェクトのリーダーを想定している。

## Doctor of Philosophy : 博士(グローバルヘルス) 授与

### 3年次後期: 博士論文審査・最終試験

国際水準のグローバルヘルス研究を遂行し、Doctor of Philosophyの学位に相応しい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた学位論文(ティーク形式)を作成し、JAC学務委員会による学位審査を受ける。

### 2年次～3年次前期: TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトに参加



### 1年次後期: 博士研究格審査(Qualifying Examination)

JAC学務委員会による、研究計画書の審査を実施する。本審査に合格した者のみ、TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトへの参加が認められる。本審査に不合格となった者は以下を選択する。

- ① TMGH博士後期課程グローバルヘルス専攻への転専攻
- ② LSHTMにおいてMaster of Philosophyを取得
- ③ 自主退学

### 1年次前期: 研究指導チーム決定

JAC学務委員会による、学生のバックグラウンドにベストマッチングする主指導教員(1名)及び副指導教員(2名)から構成される研究指導チームの決定。主指導教員がLSHTMの教員の場合、副指導教員のうち1名はTMGHの教員が担当する。

## 主な入口: TMGH修士課程(博士前期課程)又はLSHTMを優秀な成績で修了した者

TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究やプロジェクトとのマッチング、又は出願時の研究計画等による審査(書類選考、外国語検定試験、面接)を実施する。(外国語検定試験については、LSHTM博士レベル相当を求める)

## ディプロマポリシー

- ① グローバルヘルス全体を俯瞰する能力と知識を有する
- ② 日英が推進する国際共同研究や国際共同プログラムへの参加経験を介して、国際共同研究等において主導して研究・活動する能力を有する
- ③ 成果を公表して、グローバルヘルス領域の科学研究を推進する能力を有する
- ④ 科学的知見に基づき、実践においてもインパクトを与えられる能力を有する

すなわち、グローバルヘルス分野において、研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を備えた人材であり、国際的環境のなかで、グローバルヘルス分野における国際共同研究・実践プロジェクト(特にTMGHとLSHTMが共同で実施する研究等)を推進できる能力を有した者である。

## カリキュラムポリシー

- ① 研究領域の選択に関するカリキュラム
  - ・体系的文献検索を通じて先行研究の十分な精査
  - ・文献の批判的読解を通じて信頼できる情報の選択力
  - ・学際的な研究指導チーム内での実質的な議論を通じて発表能力
- ② 研究計画作成に関するカリキュラム(博士研究資格審査準備)
  - ・意義のある革新的な研究課題を吟味・決定
  - ・研究計画書・プロトコルの作成(演習)
- ③ 研究技術修得に関するカリキュラム
  - ・個々の研究計画・プロトコルに沿って、実験手技演習、疫学調査手技演習、その他必要な基礎知識・技術取得を行う(必要に応じて追加的に修士授業の聴講等による知識獲得も課す)
- ④ 博士研究チューイション
  - ・博士研究の進捗に合わせた討論・方法と結果のチェック
  - ・ティーク形式論文の作成指導(博士論文審査・最終試験)

## アドミッションポリシー

- ① グローバルヘルス領域において、博士レベルの研究・実践能力を修得するために必要な基礎および専門知識・技術を有する (知識レベル)
- ② 同領域の進展に貢献しようとする向学心を有する (ミッション・精神レベル)
- ③ 博士号取得後に様々な分野と協働して国際チームの一員としてリーダーシップ・フォロワーシップをもって活躍できる能力、柔軟性を備えていること (社会性・国際性・能力レベル)

【Joint Academic Committee (JAC学務委員会)の運用】 TMGHとLSHTMを中心に構成されるJAC学務委員会～研究計画審査委員会～博士論文審査会～修士論文審査会～修士論文審査～修了判定と、入学から学位取得までの全プロセスを管理し、教育・研究・学位の質を担保する機能を果たす。



**入口**  
原則として、TMGH修士課程又はLSHTMを優秀な成績で修了した者。  
面接、外国語検定試験書類審査等により選抜  
国際共同研究等を実施することから、高い英語力を想定 (IELTS 7.0 相当)

**研究計画書の審査**  
研究計画の審査によりブラッシュアップを実施

**国際共同研究等への参加**  
TMGHとLSHTMが共同で実施する国際共同研究等に参加し、世界レベルの研究者における、教育、研究、実践が三位一体となった指導を受ける。

**出口**  
TMGH及びLSHTMの教員・研究者や国際機関、国内機関 (JICA等)、国際NPOが実施する国際プロジェクトのリーダーを想定。

グローバルヘルス領域におけるTMGHとLSHTMの共同研究・プロジェクトの推進及び両大学の更なる連携強化を推進する人材の養成を目的としている。国際連携専攻における修了生は、将来的に日英が共同で推進する第3国での研究プロジェクトや実践プロジェクトのリーダーとして推進する能力に加え、日英のみならず、日本と欧米先進国や国際機関との連携強化を通じてグローバルヘルスを推進することができる能力を持った者となる。

**研究指導チームの構築**  
学生の研究テーマに沿って研究指導チームを決定する。学生が、グローバルヘルス領域において国際共同研究等により卓越した博士論文作成が可能となる研究指導チームを構築。

**研究計画書審査会による、進捗管理**  
研究計画書の審査を実施 (審査委員の選考含む) する。  
研究期間中の教育・研究の進捗管理を実施し、教育の室を担保する。

**論文審査及び修了判定**  
論文審査における審査員を選定する。  
また審査員による審査結果を精査し、修了判定を実施することにより学位の質を担保する。

Joint Academic Committee (JAC学務委員会)

入学	1年次(1~4Q)	2年次(1~4Q)	3年次(1~4Q)	修了
----	-----------	-----------	-----------	----

# LACS

主体的学習促進支援システム

- ① 学生と教員、学生同士、教員同士のコミュニケーションを促進
- ② 授業に関する様々な情報(目標、メモ、課題・レポート等)を管理
- ③ ポートフォリオを活用し、学生の「気づき」や教員の「改善」を支援

## 教員ポートフォリオ

- 授業関連
  - 授業哲学
  - シラバス(詳細)
  - 授業メモ
  - その他リソース
- 教育改善関係
  - 学生による授業評価
  - 授業改善方策
  - FD等への参加
- 地域貢献関係
  - セミナー等の講師
  - 学外講演

改善・発信



収集・蓄積・分析・可視化

## SNS

- 授業コミュニティ
- 教員間コミュニティ
- 課外活動コミュニティ
- 掲示板
- お知らせ

コミュニケーション

## 学習管理(LMS)

- 出欠管理
- 教材管理
- 課題管理
- システム利用時間
- アクセス記録

マネジメント

収集・蓄積・分析・可視化

## 学生ポートフォリオ

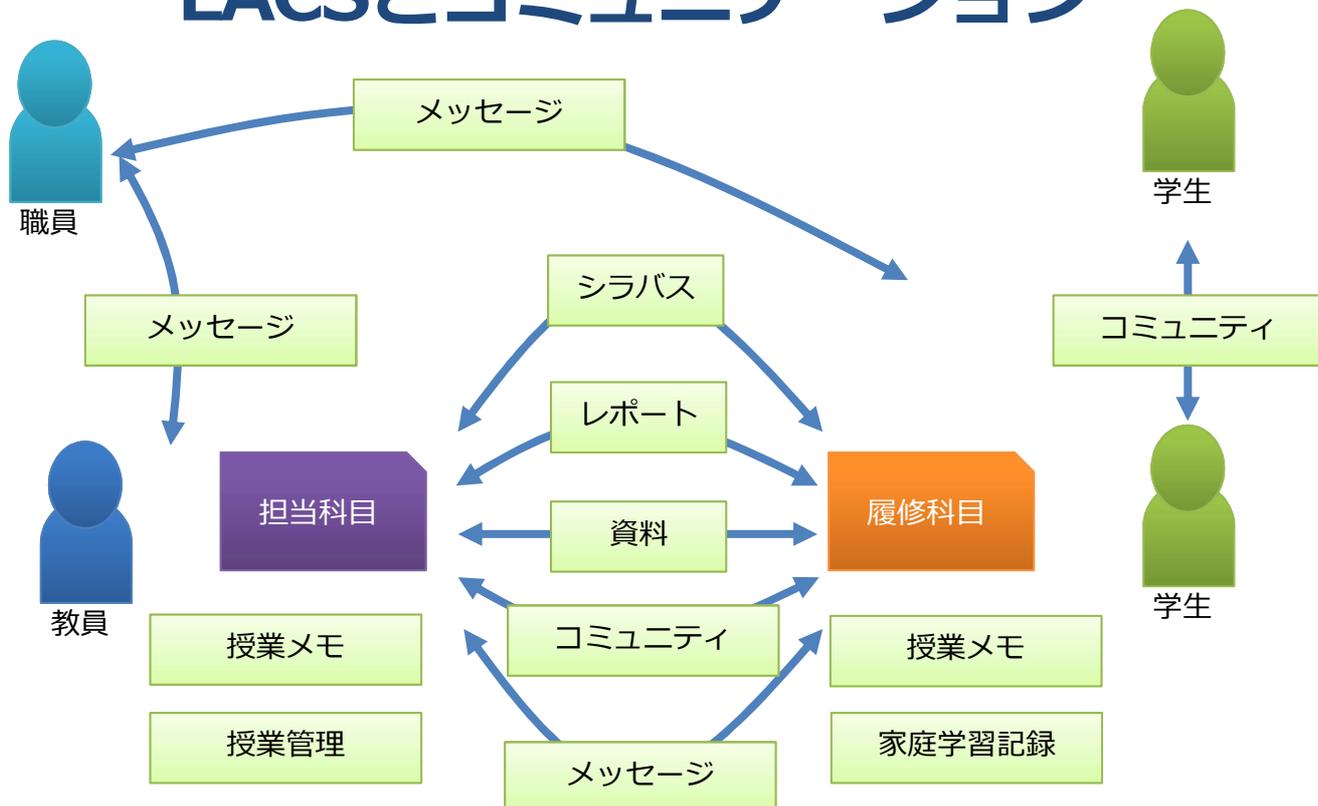
- 授業関連
  - 目標設定
  - 授業メモ
  - 自己評価
- 時間外学習関連
  - 学習内容
  - 学習時間
- 評価・成績
  - レポート・テスト
  - 質問と回答
- 資格等

省察・発信



能動的で主体的な学びを育む教育・学習の「型」の形成 かた

## LACSとコミュニケーション





国際連携専攻の人材養成像



博士後期課程で養成する人材像

TMGH修士課程では、「コースワーク」型のカリキュラムを主体とする教育課程を編成しており、グローバルヘルス領域における課題を解決するために必須となる基礎的な知識及び研究能力を修得させてきた。よって、研究（特に国際的な協働研究やプログラム）への参加経験は導入レベルであったが、TMGH博士後期課程では、「リサーチワーク」型のコースデザインにより、さらに高い次元でグローバルヘルスを理論的・実践的に研究・創造する能力を備えた実践的・社会的リーダーの養成をすするため、本格的な国際共同研究や国際共同プログラムへの参加が可能となる教育課程を構築する。博士後期課程で養成する人材像は以下のとおりである。

- ① グローバルヘルス全体を俯瞰する能力と知識を有する者
- ② 国際共同研究や国際共同プログラムへの参加経験を有し、当該共同研究等において主導して研究・活動する能力を有する者
- ③ 成果を公表して、グローバルヘルス領域の科学研究を推進する能力を有する者
- ④ 科学的知見に基づき、実践においてもインパクトを与えられる能力を有する者

・グローバルヘルス分野において、研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識を備えた人材であり、国際的環境の中で、グローバルヘルス分野における国際共同研究・実践プロジェクトを推進できる能力を有した人材。

・当該領域における実務の推進、研究によるエビデンスの創出又はエビデンスに基づいた意思決定などができる組織リーダーとなる人材が不足している。

具体的には…

- ① 国際プロジェクトにおける研究員。国際研究プロジェクトでの研究成果を創出。例えば、LSHTMが複数の大学と共同で推進するワクチントライアルなど感染症対策介入プロジェクトのプロジェクトマネージャー
- ② 国際プロジェクトにおける高度専門家。国際実践プロジェクトの推進を担当。例えば、日英が共同で推進する第3国におけるUHC推進介入プロジェクトのプロジェクトマネージャー
- ③ 上記、①、②にかかわるような、国際機関、国内機関（JICA等）、研究所、大学、企業、国際コンサル会社、国際NPO。以上は、国内のみならず、海外の企業、NPO、大学などを想定。

リーダーに必要な能力

- ① 学際的かつ多国籍な人員で構築されるプロジェクトの遂行に必要な、幅広い知識と高い語学力（英語）によるコミュニケーション能力
- ② 定められた期間及び予算の中で目的を達成するために必要な行動計画を策定し、その内容をプロジェクト構成員に説明、同調させる能力
- ③ 予期しない状況及び不確実性に耐え、当該状況下でプロジェクトに必要な意思決定（取捨選択）をできる能力

国際連携専攻

人材養成像

グローバルヘルス領域におけるTMGHとLSHTMの共同研究・プロジェクトの推進及び両大学の更なる連携強化を推進する人材の養成を目的としている。国際連携専攻における修了生は、将来的に日英が共同で推進する第3国での研究プロジェクトや実践プロジェクトのリーダーとして推進する能力に加え、日英のみならず、日本と欧米先進国や国際機関との連携強化を通じてグローバルヘルスを推進することができる能力を持った者となる。

TMGH及びLSHTMの教員・研究者や国際機関、国内機関（JICA等）、国際NPOが実施する国際プロジェクトのリーダーを想定

Joint Academic Committee (JAC学務委員会)

⑤ 論文審査及び修了判定を実施する。論文審査における主査及び副査を選定し、審査員による審査結果の精査、合否判定を実施し学位授与について両学長に報告する。

④ 研究計画、行動計画の策定・審査・進捗管理  
国際共同研究等のリーダーに必要となる以下の能力を修得させるため、JAC学務委員会は**研究計画書を策定させ、当該計画の事前審査(Qualifying Examination)、進捗管理(原則として6ヶ月毎にプログレスレポートを提出させる)、最終審査(発表会含む)を実施して教育の質を担保するものとする。**  
事前審査は、1年次終了時(9月)に実施し、進捗管理は参画するプロジェクトにより異なるが、原則として6ヶ月毎にレポートを提出させる。最終審査は、博士論文の基となる研究が終了した時点で実施するものとする。

- 1.学際的かつ多国籍な人員で構築されるプロジェクトの遂行に必要な、幅広い知識と高い語学力(英語)によるコミュニケーション能力
- 2.定められた期間及び予算の中で目的を達成するために必要な行動計画を策定し、その内容をプロジェクト構成員に説明、同調させる能力
- 3.予期しない状況及び不確実性に耐え、当該状況下でプロジェクトに必要な意思決定(取捨選択)のできる能力

③ 研究計画書審査会における審査員の選定。審査委員会の結果報告の精査を行う。

② 学生の研究テーマに沿ってベストマッチングの研究指導チームを決定する。学生が、グローバルヘルス領域において国際共同研究等により卓越した博士論文作成が可能となる研究指導チームを構築。

① アドミッションポリシーに沿って、入学選抜試験を実施する。試験官等の選考も実施し、国際連携専攻のカリキュラムに耐えうる入学者のレベルを担保する。

※入学選抜試験において、書類審査及び外国語検定試験を実施し、高い意欲と英語力、そしてコミュニケーション能力を持った学生を選抜する。

2~3年次

学生は、JAC学務委員会が選定した審査委員より、下記の基準に沿って審査を受ける。

- ① 当該学術専門領域の専門家による詳細な査読に応え、しかるべき学術誌に掲載に値する独創的研究を遂行し、当該専門領域に新たな知見と解釈を生み出す能力を有すること
- ② 当該学術専門領域の最新知識を体系的に十分理解し、獲得していること
- ③ 当該学術専門領域に新たな知見、応用法、あるいは解釈をもたらす研究を構想、設計、遂行し、予期しない問題に直面した際、研究設計を修正するための幅広い能力を有すること
- ④ 研究及び高度な学術調査に応用可能な技術に対する深い理解を有すること

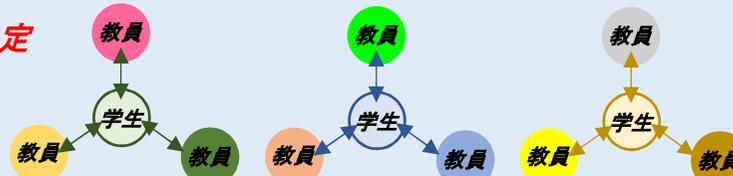
国際共同研究等に実際に参画することで、グローバルヘルス領域にかかる高い専門性とリーダーとして必要な能力を修得させることとしている。  
グローバルヘルス領域にかかる専門性は、実際に国際共同研究等に参画する中で、主指導教員を中心とした研究指導チームによる指導により修得する。左記したリーダーとして必要な能力は、自己で作成した研究計画の中で、タイムスケジュールや予算執行計画等の行動計画を策定し、JAC学務委員会の評価を受け、さらに活動中に予期しない事象により当該計画に変更等があった場合、当該プロジェクトメンバーとのミーティングを実施し、研究計画を修正すると共に、当該修正内容と対応をレポートとして作成し、JAC学務委員会に提出する。また、参画するプロジェクト自体の実施計画に変更等が発生した場合、当該プロジェクトリーダー及び指導教員が必要と認める事項について、当該プロジェクトリーダーが実施計画の変更のために実施した判断及び対応についてレポートを作成し、当該プロジェクトリーダー及び指導教員、JAC学務委員会に提出する。

国際共同研究等における行動計画の策定

1年次

研究計画書発表・審査委員会

研究指導  
チームの決定

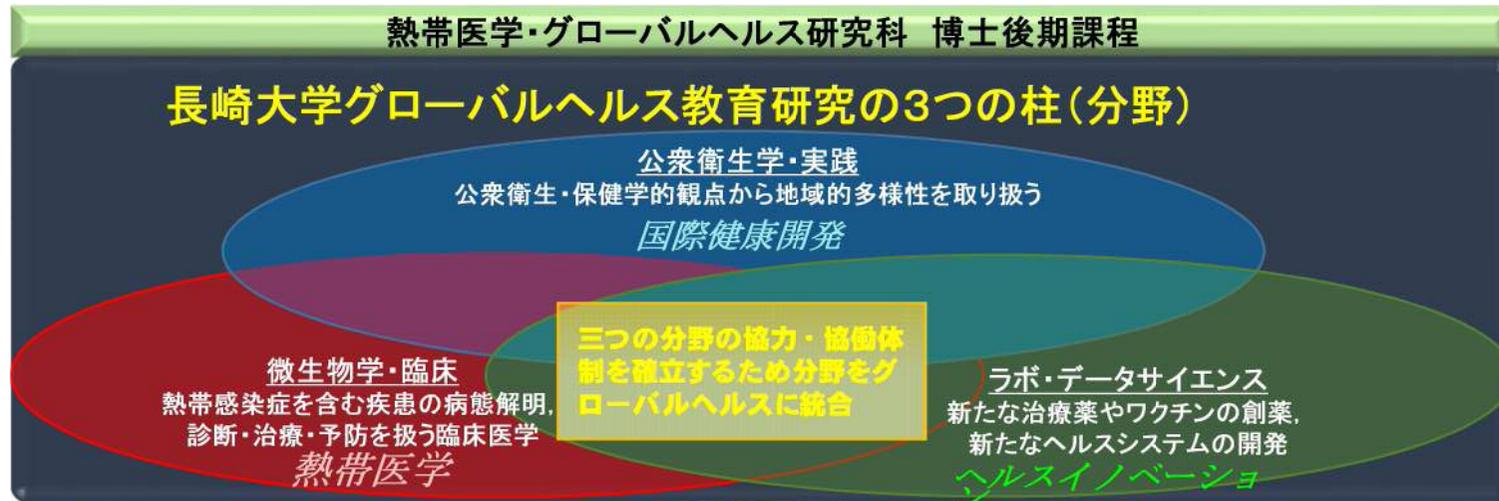


入学選抜試験

出願時：出願者と教員の面談等により主指導教員の内諾を得る。



# 既設修士課程との関係



熱帯医学・グローバルヘルス研究科 修士課程(博士前期課程)		
グローバルヘルス専攻		
熱帯医学コース	国際健康開発コース	ヘルスイノベーションコース
<p>・コースの概要 熱帯地・途上国の臨床現場において必要とされる臨床能力と、応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。</p>	<p>・コースの概要 国際保健/GHの現場における実務専門家(国際機関職員等)に必要なとされる実践的能力を教授することを主眼とする。</p>	<p>・コースの概要 熱帯医学、国際保健/GHのある特定領域における応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。</p>